

様式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号

3	2	6	9	2
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 補助事業期間 平成23年度～平成25年度
5. 課題番号

2	3	5	2	0	1	9	3
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題 大阪万博における前衛芸術 考察と国際比較

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
8 0 5 9 1 0 0 7	クレサワ タケミ 暮沢 剛巳	デザイン学部	准教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
1 0 3 4 8 4 5 1	エトウ ミツノリ 江藤 光紀	筑波大学・人文社会科学研究所（系）	准教授

9. 研究実績の概要

研究の概要は次のようなものである。日本万国博覧会（1970年。以下大阪万博と記す）における前衛芸術運動について、美術家・建築家・デザイナー・音楽家が協同した企画に焦点を絞り、基礎的な資料を調査・収集する。次にこれらの動きを戦後の国際的な前衛の流れの中に位置づける。ブリュッセル万博やモントリオール万博など先行する戦後の万博、そして大阪万博後の動きにも着目し、それらにおける同種のプロジェクを調査・研究することにより、万博という場が総合芸術の表現に対しどのような可能性を与え、それを実現したのか、さらにはそれが戦後の前衛芸術運動においてどのような位置を占めていたのかを検討する。

23年度は研究年度の一年目として、まず今後の分析の切り口を定めるところからスタートした。巨大イベントゆえに膨大な資料が残されており、さらにテーマの細目を立てることで調査範囲を絞りこむことが目的であった。

24年度は前年度の研究を受けて定めた切り口を掘り下げ、また資料の収集を進めることを大きな目的とした。またそれと並行して、研究論文を随時発表し、成果の蓄積を図ることとした。

具体的には、暮沢・江藤の両名で秋にモントリオールまで出張し、67年のモントリオール万博会場跡地を訪れ、今の残る関連施設を調査したほか、現地の博物館等で当時の資料を鑑賞し、また文献資料を収集した。その後ニューヨークでも39年と64年の世界博の調査を行ったが、滞在中に災害にあったため十分な成果は得られなかった。またそれに先立って、初夏には現代の万博の展示を調査するために韓国の麗水まで出張したが、この調査に際しては暮沢と江藤のスケジュールが一致しなかったため、各自別々に行った。また暮沢は2月下旬に大阪の万博公園を訪れて現地調査を行ったほか、基幹施設の設計者である曾根幸一からの聞き取り調査を実施した。

10. キーワード

- | | | | |
|--------------|---------------|------------|----------|
| (1) 大阪万博 | (2) EXPO | (3) 日本国博覧会 | (4) 前衛芸術 |
| (5) ブリュッセル万博 | (6) モントリオール万博 | (7) | (8) |

11. 現在までの達成度

(区分)(2) おおむね順調に進展している。

(理由)

国際比較については、前年度に引き続き、24年度は暮沢・江藤でモントリオール万博やニューヨーク世界博の会場跡地へと出向き、基礎資料を収集したほか、暮沢・江藤とも個別に麗水万博の調査を行った。また暮沢は大阪の万博公園に出向いて基礎資料を収集したほか、基幹施設の設計者である曾根幸一へのインタビューも行った。

12. 今後の研究の推進方策 等

(今後の推進方策)

H24年度に引き続き、個々のテーマの個別調査を継続する。またH24年度の調査の結果、パヴィリオンの展示や参加作家についての情報収集が必ずしも十分とは言えず、より詳細な調査を行う必要があることが明らかになったため、最終年度である本年度はより詳細な調査に取り組む予定である。研究成果の発表を引き続き行い、最終目標である研究成果の書籍化に向けてさらなる内容の充実を図っていく。また今年度は、研究内容を一層充実させるべく、博覧会協会のあるパリの文献調査と、ドイツ、北欧等の周辺諸国での情報収集を主目的とした海外調査を行う予定である。

なお今までの研究成果の一部は、青弓社の理解を得て、同社のホームページ上に「大阪万博のインパクト」というタイトルにて暮沢・江藤両名の連載形式で発表されている。前述のように、この連載をまとめて書籍化して本研究の最終的な成果の報告とする予定である。

(次年度の研究費の使用計画)

24年度は暮沢・江藤合同で海外調査を行ったのをはじめ、各自で個別に国内外の調査も行い、文献の収集も行った。25年度も同様に国内外での調査を継続し、文献の収集を進める予定である。基本的に調査は暮沢・江藤合同で行う計画だが、勤務先の都合次第では、個別で行う可能性もある。研究費の用途に関しては、暮沢は旅費を主体に、江藤は旅費と物品費を半々の比率で使用する予定である。また、H24年度に当初の予定ほど海外調査の日程を確保できなかった結果生じた繰越金の用途に関しても同様である。

13.研究発表(平成24年度の研究成果)

〔雑誌論文〕計(8)件 うち査読付論文 計(0)件

著者名	論文標題			
江藤光紀	大阪万博のインパクト 第1章 光と影、過去と未来 - SF的想像力が切り取る万博 (上)			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
青弓社ホームページ	無	-	2 0 1 2	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/banpaku/kuresawaeto2.html				

著者名	論文標題			
江藤光紀	大阪万博のインパクト 第1章 光と影、過去と未来 - SF的想像力が切り取る万博 (中)			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
青弓社ホームページ	無	-	2 0 1 2	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/banpaku/kuresawaeto3.html				

著者名	論文標題			
江藤光紀	大阪万博のインパクト 第1章 光と影、過去と未来 - SF的想像力が切り取る万博 (下)			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
青弓社ホームページ	無	-	2 0 1 2	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto4.html				

著者名	論文標題			
暮沢剛巳	大阪万博のインパクト 第2章 万博と原子力 - アトミウムから太陽の塔へ			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
青弓社ホームページ	無	-	2 0 1 2	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto5.html				

著者名	論文標題			
暮沢剛巳	大阪万博のインパクト 第3章 せんい館 - 「エロスとタナトス」が生成される「環境」			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
青弓社ホームページ	無	-	2 0 1 2	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto6.html				

著者名	論文標題			
江藤光紀	大阪万博のインパクト 第4章 詩人・武満徹と闘将・クセナキス			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
青弓社ホームページ	無	-	2 0 1 2	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto7.html				

著者名	論文標題			
暮沢剛巳	大阪万博のインパクト 第5章 ペプシ館-「独自の単一性と全体性」に見る大阪万博からの問題継起			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
青弓社ホームページ	無	-	2 0 1 2	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto8.html				

著者名	論文標題			
暮沢剛巳	横尾忠則主要作品改題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
ユリイカ	無	9月号	2 0 1 2	92 - 102
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

(学会発表) 計(0)件 うち招待講演 計(0)件

発表者名	発表標題	
学会等名	発表年月日	発表場所

(図書) 計(0)件

著者名	出版社			
書名			発行年	総ページ数

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

--